【小学校　詩　優秀賞】

島人の宝

糸満市立真壁小学校　六年
照屋　希之薫

梅雨が明け
澄みわたった　青空の下
みずみずしいうりずんの香りが
新しい南風にのって
私にまた　この季節を告げる

足の裏に伝わる痛みをこらえ
やっとたどりついた荒崎の海岸
今は　こんなに美しいこの浜も
六十五年前は・・・地獄の果て・・・
だったという
砲弾に撃たれ　手足を焼かれ
手榴弾で　自決するしかなかった
ひめゆりの花達

まるで　修学旅行にでも行くかのように
九州への疎開船対馬丸に乗りこんで
海の底へと沈んでいった　小桜達

十分な学業につかせたいと
首里の学校に行かせたものの
学徒隊に取られ　戻ってこなかった
思(うみ)ん子(ぐわ)達

愛する友よ
朝が来たよ　目を開けておくれ
戦争も　もうすぐ終わる
また一緒に女学校に行って勉強しよう

いかだから決して手を放すんじゃないよ
きっともうすぐ　助けに来てくれる
内地の雪を見に行こう

弾に当たってはいけないよ
必ず　生きて戻っておいでよ　我が子
母さんに　必ず　姿を見せなさい　必ず
友を思い　親を慕い
我が子の身を案じた　六十五年前

でも
友は　目を開けることなく
父は　帰ってこなかった
そして　わが子を
二度と　その手に抱くことはなかった

私は　生きていきます
強く　生きていくことを　誓います
大切な友のために
将来を託して　楽しみにしてくれる
両親のために

そして
語り続けます　語り続けていきます
本当にあった　沖縄戦を
決して　忘れてはいけない
あやまちを
緑の大地と
果てしなく続く　空と海を
永遠に　守り続けたい
ワシタ宝島　ウチナー